

## 分担研究報告書

### 油症認定患者追跡調査の基盤情報の構築

研究分担者	吉村 健清	福岡女子大学国際文理学部	教授
研究協力者	藤野 善久	産業医科大学公衆衛生学教室	准教授
研究協力者	久保 達彦	産業医科大学公衆衛生学教室	講師

#### 研究要旨：

昨年度から今年度にかけて分担者管理の 5 種の油症患者ファイル（総数：7127 件）の統合作業を終了し、各油症患者について、氏名、性、生年月日、死亡年月日、最新住所の一致、不一致を相談員等の協力を得て、調査、検証して住民票調査のための基盤調査ファイルを作成した。この分担者管理の統合リストと九州大学病院油症ダイオキシン研究診療センターが保管するリストとの照合をセンターの協力により、作成した。このリストの完成により油症患者死因調査の調査体制を確立することができた。

#### A. 研究目的

油症認定患者の死因追跡調査は、油症患者のこれからの健康管理やダイオキシン類経口摂取の健康影響を知る上で重要な調査である。そこで、昨年につき、認定患者追跡調査実施のための調査ファイルの基盤整備をすることを目的とした。

（倫理面への配慮）

現在、追跡調査のための情報収集について、個人情報保護法、疫学倫理指針など調査対象者への倫理面の十分な配慮をしつつ、必要な手続きを進める準備を行い、調査情報の構築ならびに調査体制の整備を進めている。従って、倫理上の問題は特に生じない。

#### B. 研究方法

##### 1. 調査ファイル（5 種）の統合一元化

油症研究班データ取扱規約に基づき、九大油症研究班の患者情報ファイル、福岡県保健環境研究所の検診・受診者ファイルの使用申請を行い、許可を得てそれぞれのファイルを入手した。さらに、油症検診データ、油症患者実態調査データを研究班申請手順に従い、許可を得て入手した。

そして、これらの情報ファイルと、産業医科大学在任当時の油症認定患者追跡調査情報ファイル等とを個人識別情報に基づいて照合し、ファイル

専門家の支援を得て一元化した。

##### 2. 油症相談員による現地調査実施

油症患者の認定地情報に基づき、全油症認定患者を、福岡県内を認定地とするもの、長崎県内を認定地とするもの、広島等その他の府県を認定地とするもの、さらに、認定地不明分の 4 群にファイルを分割し、油症相談員の実地調査資料として配布し、該当認定患者の住所・生存状況の調査を油症相談員に実施してもらった。

##### 3. 現地調査結果に基づき、一元化ファイルの修正作業

福岡地区、五島・長崎地区、広島・その他地区担当の 3 名の油症相談員に油症認定患者の調査時の現住所、生死の状況（死亡の場合は死亡年月日）ならびに、性、生年月日の確認をした結果を用いて、一元化したファイルの修正作業を実施した。

##### 4. 修正一元化ファイルと九州大学病院油症ダイオキシン研究診療センター保管情報ファイルとの照合

前述の通り、分担研究者の修正一元化ファイルと九州大学病院油症ダイオキシン研究診療センター保管の油症患者ファイルとの照合作業を研究センター職員の協力を得て実施した。

## 5. 住民票調査への準備

住民票による生死確認作業は死因調査のための人口動態統計死亡ファイルとの照合のために不可欠となるが、個人情報保護法により、各自治体の住民票情報の取得が厳しくなりつつある。そこで、現在生存者に対し、調査への同意確認をとるべく、患者団体、厚生労働省担当部局と相談を行った。

## C. 研究結果および考察

### 1. 調査ファイル（5種）の統一化

油症検診データ、油症患者実態調査データ、研究分担者調査データ等のファイルを氏名により照合し、認定地別に4つに分類したところ、福岡県分2502件、長崎県分2678件、広島県その他分940件、認定地情報がないもの1007件得られた。

### 2. 油症相談員による現地調査実施

この全データ統合ファイルをもとに油症認定患者について、調査時点（平成25年1月）での生死状況、現住所情報を確認、調査するため、各油症相談員担当地区および認定地情報未記載分をそれぞれ印刷ファイルとし、3人の油症相談員に研究班長の許可を得て調査を依頼した。

平成25年3月末に各相談員の調査が終了し、現時点での住所、生死情報が入手できた。

### 3. 現地調査結果に基づき、一元化ファイルの修正作業

各相談員から調査結果が記載された情報を1件1件確認し、疑問、不明の点を再度各相談員に問い合わせた。この結果により現時点で判明した情報を過去の情報と照合を行い、現段階で正しいと思われる情報を確定し、ファイルの修正作業を実施した。

この研究分担者作成のファイルは、追跡調査対象の油症認定患者1909名について、ID、氏名、住所、生年月日、性別、生死、死亡年月日、住所情報の情報を記載している。

### 4. 修正一元化ファイルと九州大学病院油症ダイオキシン研究診療センター保管情報との照合

2014年9月、研究分担者調査により作成したファイル1909名（IDあり1883名、IDなし26名）を九州大学病院油症ダイオキシン研究診療センター保管の認定患者ファイルとの照合を依頼した。平成26年12月、九州大学病院油症ダイオキシン研究診療センターの多大な協力により照合結果の報告を受けた。

その結果、2つのファイル情報の大半は合致していたが、生年月日の不一致73件、性別の不一致18件が明らかになったため、この点を1件1件について、検討し、油症認定患者のデータの統一をはかり、今後の油症研究班での油症認定患者死因調査の基盤を作成することとする。

## 5. 住民票調査への準備

現在のところ、油症認定患者について、各自治体で住民票が得られるか否かは、個人情報保護法の観点から微妙な問題である。生存している認定患者に対し、個人同意を求める方法はあるものの、一部同意が得られない場合が考えられ、調査集団選択の偏りをおこす可能性があり、油症認定患者の死因の検討が偏りのため十分にできない可能性がでてくる。一方、「カネミ油症患者に関する施策の総合的な推進に関する法律」によれば、「カネミ油症に関する専門的、学際的又は総合的な研究を推進する」ことが謳われていることから、各自治体に協力を求めることも考えられるが認定患者へ十分な理解を求めつつ、実施していく必要がある。

現在のところ、住民票取得の方針について、関係者と十分な時間をかけて検討をしていく必要があると考える。

## 今後へ向けて

個人情報保護の問題が解決すれば、その住民票情報により、生年月日、生死情報、死亡年月日、住所が確認できた死亡者について死因調査を実施する。方法は、油症認定患者全死亡者1人1人についての原死因を得るために、新統計法（平成21年4月から施行）の「統計法第33条の運用に関するガイドライン」に従い人口動態統計死亡ファイル（昭和48年から最新年度まで）の利用許可申請を厚生労働省担当部局に行う。

照合項目（各認定死亡患者の生年月日、死亡年

月日、性、住所地)に基づいて、厚生労働省死亡ファイルと照合し、照合できた原死亡を当該油症患者の死亡原因とする。

そして、コホート分析により、標準化死亡比(SMR)を用いて全国の死亡状況を比較することを目的に、現在までの全調査ファイルの九州大学病院ダイオキシン研究診療センターへのデータ移管を目指す。

## D. 結論

研究班申請手順に従い、油症検診データ、油症患者実態調査データを許可を得て入手した。データファイルの照合、油症相談員担当地区での認定患者現状調査を終了し、その結果をもとに相談員情報に基づいた油症認定患者の一元化ファイルを作成した。現在、研究分担者が作成した油症認定患者修正一元化ファイルと九州大学病院症ダイオキシン研究診療センターとの照合が終了し、情報の確認が必要な点が若干判明した。今後この点を1件1件検討した後、住民票情報取得への方策を検討する。しかし、昨今の個人情報保護法の強化のため、住民票取得に困難が予想されるので、現在、同意書の取得に向け、具体的方法を関係機関と協議している状況にある。

## E. 研究発表

### 1. 論文発表

Onozuka D, Yoshimura T, Kaneko S, Furue M. Mortality after exposure to polychlorinated biphenyls and polychlorinated dibenzofurans: a 40-year follow-up study of Yusho patients. Am J Epidemiol. Jan 1;169(1):86-95, 2009.

Tsukimori, T., Uchi, H., Mitoma, C., Yasukawa, F., Chiba, T., Todaka, T., Kajiwara, J., Yoshimura, T., Hirata, T., Fukushima, K., Wake, N., Furue, M. Maternal exposure to high levels of dioxins in relation to birth weight in women affected by Yusho disease. Environmental International, 38;79-86, 2012.

吉村健清.

EBM と臨床研究 - 疫学の役割 - .

JOHNS, Feb;28(2):156-158, 2012.

Pham TM, Ozasa K, Kubo T, Fujino Y, Sakata R, Grant EJ, Matsuda S, Yoshimura T.

Age-Period-Cohort Analysis of Chronic Obstructive Pulmonary Disease Mortality in Japan, 1950-2004.

J Epidemiol. 22(4):302-7, 2012.

Takesumi Yoshimura.

Yusho: 43 years later.

Kaohsiung Journal of Medical Sciences 28,(2), S49-S52, 2012.

二塚信, 吉村健清.

食品汚染による中毒の認定をめぐる最近の動向 - 水俣病・カネミ油症.

医学のあゆみ, 244 (10) (2013. 3月)

### 2. 著書

古江増隆, 赤峰昭文, 佐藤伸一, 山田英之, 吉村健清 (2010) 油症研究 - 治療と研究の最前線. 九州大学出版会, 福岡

### 3. 学会発表

Takesumi YOSHIMURA, Yusho-After 43 years Present and Future, ( '2011 International Conference on Food and Drug Safety Assessment' ) Kaohsiung Medical Univ. Taiwan, 2011. Apr. 15-16

Takesumi YOSHIMURA, Fumiko YASUKAWA, Hiroshi UCHI, and Masutaka FURUE,

The First Fact Finding Survey of All the Yusho Patients in Japan - after 40 years of the accident - ,

Dioxin 2011, Aug. 21-25, Brussels

吉村健清, 疫学から行動変容へ - ヘルスコミュニケーションの役割と課題 - ,

第4回日本ヘルスコミュニケーション学会 特別

講演(2012.09.07), 慶應大学藤沢キャンパス

A Review: Medical Social Issues Faced by Yusho Patients and Implemented Countermeasures: 45 years later, DIOXIN 2013, Daegu, Korea. (2013.08.27.)

Takesumi YOSHIMURA, Hiroshi UCHI, and Masutaka FURUE,

A Review: Medical and Social Issues Faced by Yusho Incident and Their Countermeasures: 45 Years Later,

Dioxin 2013, Aug.25-30, Daegu, Korea

**F . 知的財産権の出願・登録状況**

なし